

国際会議報告

32nd International Microprocess and Nanotechnology Conference

正員 矢作 徹 (山形県工業技術センター)

1. はじめに

例年 10～11 月に開催されるマイクロプロセス・ナノテクノロジー国際会議 (MNC) は、リソグラフィ及び半導体プロセス技術に関する国際会議である。2019 年は 10 月 28 日から 31 日まで広島国際会議場 (広島市) にて開催された。会場は広島平和記念公園内に位置し、近くには原爆ドームや 4 月にリニューアルオープンしたばかりの広島平和記念資料館があり、国内外の多くの観光客でにぎわっていた。会議後には他の参加者の方々とともに筆者も訪問し、平和への祈りを捧げさせていただいた。

2. 投稿数・採択数

本学会への投稿数は 361 件、採択数は 300 件であり、採択率は 83% であった。出席者数は 435 名で、国内からは概ね 3/4 となる 300 名程度の参加があった。次は台湾、韓国と続き、それぞれ 30 名、20 名程度であった。シンガポール、アメリカ、中国、タイからは 6～7 名、ベルギー、ドイツ、マレーシア、オランダ、オーストラリア、オーストリア、フランス、インド、インドネシア、ポーランドから 1～2 名の参加があった。地域割合としては、アジア・オセアニアが 96%、アメリカ、ヨーロッパがそれぞれ 2% 程度とアジア圏の参加者割合が大きかった。

3. 発表概要

本学会では招待講演を含めて 340 件の発表があった。初日 28 日は、技術セミナー「原子層プロセス技術の基礎と応用」として ALD や ALE に関する 5 件の講演、及び文部科学省ナノテクノロジープラットホームの紹介があった。セミナー後には Get Together Party が開催された。翌 29 日は本会議が行われ、Rahil Hasan 氏 (Micron Memory, Japan) による“Future Fab and the Skills of Tomorrow”, Shintaro Yamamichi 氏 (IBM Research, Japan) による“Computing Reimagined-AI/quantum/IoT”, Sasikanth Manipatruni 氏 (Kepler Computing, USA) による“Building the Next Ubiquitous Computing Device with Room Temperature Quantum Materials”の 3 件の基調講演があった。その後、分野ごとに 5 つの会場に分かれて各会場で口頭発表が行われた。主な発表分野は Lithography and Related Technologies and Metrology, Nanotechnology, Nanoimprint, Hybrid-NIL, Biomimetics, and Functional Surfaces, BioMEMS, Lab on



図 1 発表会場の様子



図 2 バンケット会場

a Chip, and Nanobiotechnology, Microsystem Technology and MEMS 等であった。30, 31 日は口頭発表に加えてポスターセッションも行われ、各パネルの前で熱心な議論が交わされた。30 日夕方に開催されたバンケットでは、プロの演奏家によるチェロと笙の生演奏があり、参加者は美しい音色に耳を傾けながら、美味しい食事を楽しみ、貴重な体験をさせていただいた。

4. おわりに

今回は 2020 年 11 月 9 日から 12 日に、大阪市のアートホテル大阪ベイタワーで開催される。6 月 24 日がアブストラクト提出の締切であり、是非ご参加をいただきたい。

(令和 2 年 1 月 15 日受付)